

高等学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

目 次

I	主題設定の理由	2
II	研究構想図	3
III	実践研究	
	●ステージⅠ 生徒の基礎的・基本的な能力を高めるための学習活動	
	【実践事例1】 学ぶ力を高める取組み	4
	【実践事例2】 課題別グループ学習の導入期の指導と工夫	7
	●ステージⅡ 生徒の進路選択に必要な能力を高めるための学習活動	
	【実践事例3】 2週間の短期集中講座における学習活動の効果	10
	【実践事例4】 グループディスカッションを活用した コミュニケーション能力の育成	13
	●ステージⅢ 生徒の総合的な能力を高めるための学習活動	
	【実践事例5】 異なる地域・文化の研究を通してコミュニケーション能力、 発表する力を高める取組み	16
	【実践事例6】 グループ活動で取り組むプロジェクト学習	19
IV	指導モデル	22
V	まとめ	24

研究主題 生徒が主役となる学習活動

I 主題設定の理由

平成17年度の教育研究員「総合的な学習の時間」部会では、共通研究テーマ「個に応じた指導の一層の充実」のもと、東京都の教育施策である生徒の学力向上や健全育成等を踏まえ、以下のようなことから「生徒が主役となる学習活動」を研究主題として設定した。

まず、本研究部会では、学習指導要領における「総合的な学習の時間」の3つのねらいについて、再確認した。その結果、これらのねらいを達成するためには、各学校において、生徒が自ら主体的に取り組む「総合的な学習の時間」を実践することが不可欠であると考えた。

しかし、部会の各所属校において、生徒が自ら主体的に取り組む授業である「総合的な学習の時間」が、必ずしも十分には行われていないのではないかと考えた。

そこで、教員と生徒を対象とした「総合的な学習の時間」に対する意識と実態の調査が必要であると考えた。アンケートの実施に際しては、生徒が小学校や中学校において学習した内容が、詳細に読み取れるように留意した。その結果、生徒からは、「ただ座って聞いているだけの時間では、興味・関心・意欲がわからないのではないか」等の意見が見られた。教員からは、「何をしてよいか分からない」、「生徒が自ら課題を設定し、主体的に課題に取り組んでいくような授業を目指したい」等の意見が見られた。また、課題として、生徒のコミュニケーション能力や主体的な学習意欲の不足、リーダーの不在などがあげられた。

このような基礎研究や調査研究を基に、本部会では、「主体的に学習活動に取り組み、自ら課題を見付け問題解決していく生徒」を目指す生徒像とし、研究仮説を次のように設定した。

「基礎・基本の充実」、「進路選択」、「総合的な能力」、「体験学習」の4つの学習活動を想定し、その中で「動機付けの工夫」、生徒の「主体的な活動」、「振り返りの工夫」の3つの視点を充実させることで、生徒が主役となる学習活動を創造できる。

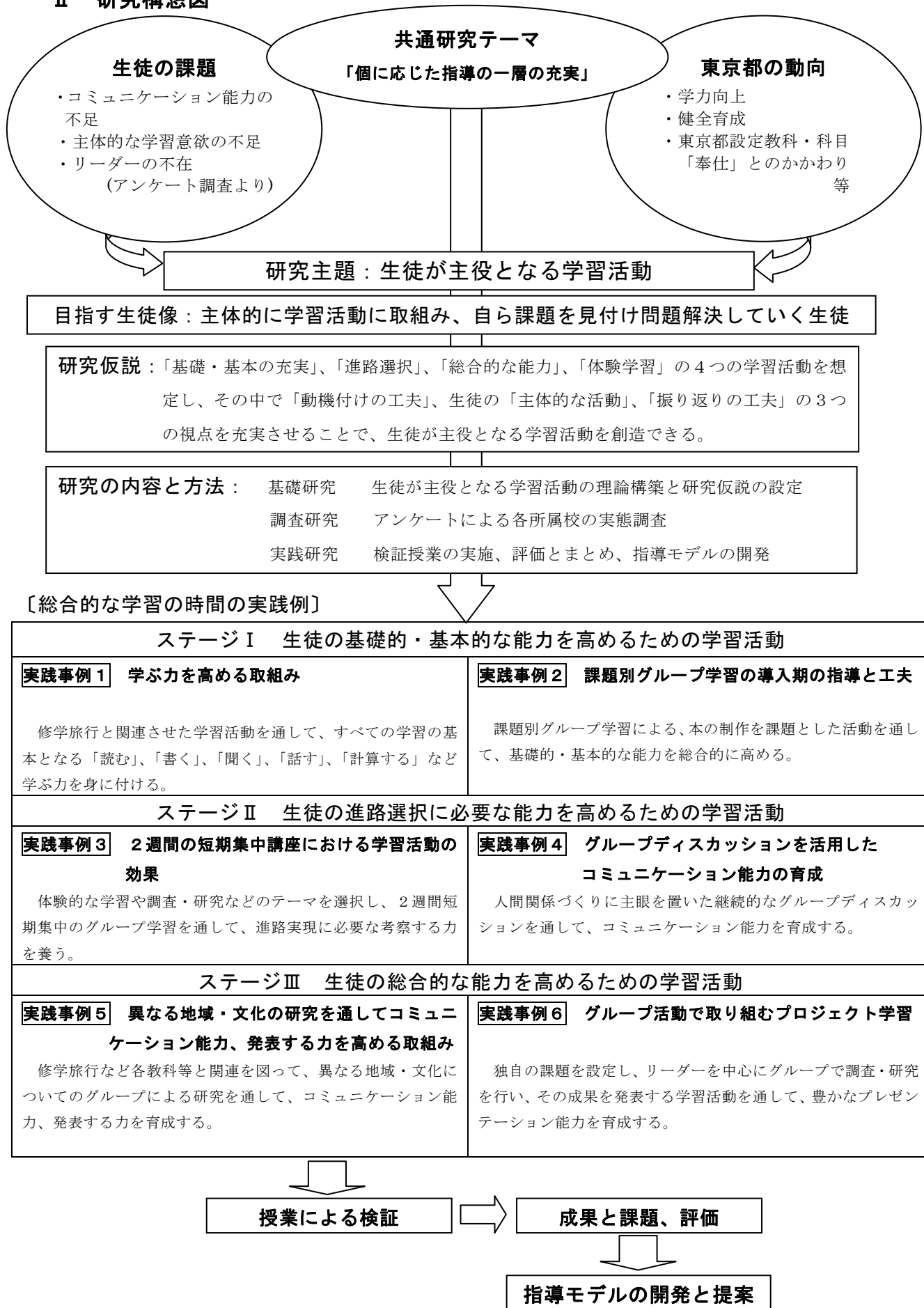
実践研究においては、教員主導ではなく、生徒自身が主役となり、生徒が生きていくために必要な「基礎的・基本的な能力」、「進路選択に必要な能力」、調査研究やプレゼンテーションなどの「総合的な能力」の3つの能力を高めるための学習活動の授業実践を行い、研究仮説を検証し、成果と課題をまとめた。また、実践研究を進める上で、クラスや各種の委員会等に寄与するリーダーを育てること、育てたリーダーの主導によるグループ活動で、生徒がお互いに高め合えることなどに留意した。

さらに、都立高等学校における総合的な学習の時間の指導モデルを開発することを目指した。都立高等学校において、「生徒が主役となる学習活動」を実現できる総合的な学習の時間のモデルプランを示すことで、多くの都立高等学校の取組みの参考になるのではないかと考えた。

このような研究を行うことは、東京都の教育施策の具現化や、共通研究テーマである「個に応じた指導の一層の充実」にもつながると考える。

そこで、本研究は、「生徒が主役となる学習活動」を研究主題として設定し、研究を進めた。

II 研究構想図



Ⅲ 実践研究

●ステージⅠ 生徒の基礎的・基本的な能力を高めるための学習活動

【実践事例1】 学ぶ力を高める取組み

(1) テーマ設定の理由

各教科・科目における基礎的・基本的な能力の確実な定着を図ることが、総合的な学習の時間のねらいの達成には極めて重要である。

すべての学習の基礎的・基本的な能力である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」、「計算する」などの「学ぶ力」をすべての生徒に身に付けさせることが、本校の日々の教育活動における課題である。

そこで、総合的な学習の時間を通して、生徒の学ぶ力を高める取組みについて、授業実践を行った。

(2) 研究のねらい

高等学校学習指導要領において、総合的な学習の時間のねらいが3つ示されている。このねらいを達成するためには、各教科等で生徒が身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、深め、総合的に働くようにすることを目指す学習活動を行う必要がある。

そこで、本研究では、知識や技能等の習得に必要な学ぶ力を高める取組みについて考察する。

(3) 研究仮説

知識や技能等を習得するために必要な学ぶ力を高めることで、基礎的・基本的な能力の確実な定着を図ることができるとともに、身に付けた知識や技能等を相互に関連付ける力を育てることができる。

(4) 指導事例

ア 授業計画

(ア) 3年間の体系的な指導のねらい

現代の社会において、生徒が生きていくために、自分の特性や興味・関心・適性を探る方法を理解する必要がある。高校生活は、自分自身の適性を探ったり、将来の目標をもったり、その目標に向かって具体的に準備するための重要な期間である。

本校における総合的な学習の時間は、「未来を拓く」と題し、以下のように学年ごとにねらいを定め、一人一人の生徒が、自分の可能性を伸ばし、たくましく将来に向かって生きていけるようにすることを目標にしている。

《第1学年 学ぶ力》

すべての学習の基礎となる「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」、「計算する」などの学ぶ力を育てる。

《第2学年 学ぶ力、身に付けた知識や技能等を相互に関連付ける力》

学ぶ力を高め、基礎的・基本的な能力の確実な定着を図り、身に付けた知識や技能等を相互に関連付ける力を育てる。

《第3学年 生きる力》

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に

取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができる能力を育てる。

(イ) 年間授業計画(第2学年)

進路指導や修学旅行等と関連させて実施する。

	学習内容	配当時間
前期 (4月～10月)	<ul style="list-style-type: none"> 進路への興味・関心・適性を気付かせる取組み (生活実態・進路適性検査、個人面談等) 基礎的・基本的な能力を高める取組み (北海道の地理や歴史の調査等) 	20時間
後期 (11月～3月)	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望の実現のための取組み (学習内容の調査、職業の特性調査等) 1年間のまとめ (進路別学習の確認、個人面談等) 	15時間

イ 研究内容

(ア) 学習テーマ 「修学旅行と関連させた学ぶ力を高めるための学習活動」

(イ) 単元のねらい

第1学年ではぐくんだすべての学習の基礎となる「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」、「計算する」などの学ぶ力を高め、基礎的・基本的な能力の確実な定着を図る。また、第3学年のねらいを見通して、身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、深め、総合的に働くようにすることに留意する。

(ウ) 各教科との関連

主な教科	関連させる主な学習内容
国語	アイヌ語について
地理歴史	北海道(小樽、アイヌの人々)の歴史について
地理歴史	北海道(尻別川)の地形について
数学	ラフティングの距離と速度について
理科	北海道(有珠山火口)の自然について
保健体育	フットオリエンテーリングについて
外国語	北海道の観光の紹介などにかかわる英文について
家庭	ジャムやアイスクリームなどの調理について

(エ) 評価の観点

- 調査研究などにおいて、学ぶ力を活用している。
- グループ活動などにおいて、積極的に取り組んでいる。
- 学習活動全体を通して、知識や技能等を相互に関連付けようとしている。
- 学習活動のまとめにおいて、適切に分担し、わかりやすく発表することができる。

ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

- 対象学年 第2学年
- 実施日時 平成17年9月28日(月) 第5校時

○実施場所 普通教室

○本時の学習 「北海道の歴史や地理を学ぶ」

○本時のねらい

今まで学んだ知識や技能等を活用して、北海道への修学旅行で行う体験学習の内容の計画を立てる。また、他校の生徒が体験したときの写真や画像を見たりするなどして、より具体的に知識や技能等を相互に関連付けられるようにする。

○資料及び準備 日本地図、小樽観光マップ、その他の書籍 等

○授業展開

	主な学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項 等
導入	<ul style="list-style-type: none">資料を読んで理解する。調べる内容を考える。	<ul style="list-style-type: none">各自が事前に用意した資料を読む。調べる内容を考えて、担当者を決める。(グループ活動)	<ul style="list-style-type: none">北海道の修学旅行に行くことを見通して、学習させる。様々な調べ方を理解させる。
展開	<ul style="list-style-type: none">北海道の地形・歴史について調べる。調べた内容を考察する。	<ul style="list-style-type: none">図書室・パソコン教室を利用して資料を集める。(グループ活動)リーダーが主導して、調べた内容を話し合うなどして考察を深める。(グループ活動)	<ul style="list-style-type: none">リーダーに全体の進行状況を把握させる。役割分担を明確にさせる。調べた内容が、不十分な場合は、さらに調べさせる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none">発表のための準備をする。他の班の発表内容を要約する。	<ul style="list-style-type: none">まとめた内容をリーダーが、代表で説明し、他の生徒は項目ごとに発表する。(グループ活動)他の班の発表について、各自で簡単にまとめる。	<ul style="list-style-type: none">プレゼンテーションソフト以外に、模造紙等を利用させる。

○検証授業の考察

(成果) 学習活動全体を通して、生徒が積極的に発言や活動をしていた。グループ学習や発表など、学習活動の形態や方法の工夫により、生徒の興味・関心が高まる。また、生徒が調査研究を深める中で、獲得した知識や技能等を相互に関連付けようとするのがわかった。

(課題) 生徒の学習活動をさらに活性化させるためには、より明確な目標や課題を提示するなどの指導上の工夫が必要である。

(5) 考察

ア 成果

基礎的・基本的な能力の確実な定着を図るには、知識や技能等の習得に必要な「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」、「計算する」などの学ぶ力が必要であることを生徒が自覚できた。このことで、生徒の授業への取り組む姿勢や態度が、より積極的になるなどの変化があった。

イ 今後の課題

知識や技能等の習得に必要な学ぶ力の重要性について、教師及び生徒が十分に認識する必要がある。

今後、生徒の学ぶ力をさらに高める取組みについて、継続して研究する。

【実践事例2】 課題別グループ学習の導入期の指導と工夫

(1) テーマ設定の理由

総合的な学習の時間において、個に応じた指導の一層の充実を図ることは重要な課題である。

生徒を学習の主体者として育てるためには、個に応じた指導と、生徒が主役となる学習活動とを一体化させると同時に、「生徒が他者と必然的にかかわらざるを得ない仕組み」が必要であると考えた。その仕組みとは、グループ学習である。

なぜグループ学習が必要なのかというと、他者と十分にかかわることができないなど、「未熟な個」である生徒が一部にいるためである。

教師は、グループとしての活動を通して、グループの関係性をもつ教育力を活用して、生徒を個に応じて指導していくという方法を考える必要がある。このような問題意識から、課題別グループ学習を研究課題として取り上げた。

具体的な方策として、教科横断的で、社会的な広がりをもつテーマを各生徒が設定し、課題に応じた学習グループを作る。また、ワークシートを活用し、学び方・考え方を身に付ける中で、基礎的・基本的な能力を獲得する。さらに、グループとしての様々な学習活動の中で、相互に学び合い、個々の能力を高めていく。こうした構造をもった総合的な学習の時間を通して、個々の生徒が、社会的な広い視野をもつ「成熟した個」へ成長していくように促すことができると考えた。

また、他者と十分にかかわることができない生徒のためには、グループ学習の入り口としての導入期の指導に、特に工夫が必要であり、焦点化して研究する必要があると考え、「課題別グループ学習の導入期の指導と工夫」というテーマを設定した。

(2) 研究のねらい

グループ学習を導入する際、生徒同士の自然な人間関係の構築を目指して、指導に工夫を加える。併せて、グループ活動の中で、場面に応じたリーダー性を全員がもてるように指導法を研究する。また、生徒が、学び方や考え方の基礎・基本を、手順や方法として理解できるようにワークシートを工夫し、有効な活用法を研究する。

(3) 研究仮説

課題別グループ学習は、教え合う・助け合う・補い合うことによって、学習内容の定着だけでなく、生徒を「成熟した個」に育てることができる。

(4) 指導事例

ア 年間授業計画(第2学年)

1学期	小論文とは何かを調べ、まとめ、発表する。小論文の典型的な構成法を学び、実際に書く。学習形態は一斉授業と個別指導を併用し、発表は個人別に行う。
2学期	「本の制作」という学習プロジェクトのもとに、テーマ設定から考え、レポートを作成することを中心に学習する。その際、課題別学習グループを作る。さらに、グループをチームに発展させ、最終的に、チームとして原稿をまとめる。
3学期	印刷・製本を行い、「本」を完成させる。次に、プレゼンテーションについて調べ、グループごとに、「本の制作過程」をテーマに、実際にプレゼンテーションを行う。まとめとして、1年間の学習活動を振り返り、総括的な評価を行う。

イ 研究内容

(ア) 学習テーマ 「研究レポート集『一冊の本』を、課題別チームの総合力で制作する」

(イ) 単元のねらい

今まで調べたことがないような、社会的な広がりをもつテーマに挑戦することによって、グループのメンバーの協力を得ながら、調査・研究・執筆・読み合わせ・推敲・印刷・製本・プレゼンテーションによる発表・自己評価・相互評価等の一連の学習活動を行う。それを通して、基礎的・基本的な能力を確実に身に付けて総合的に向上させる。

(ウ) 各教科等との関連

全般的には、国語科の学習内容との関係が深い。また、設定したテーマや内容により、地歴科、公民科、数学科、理科、保健体育科、英語科、家庭科と、調べる過程において情報科と、装丁・製本過程では芸術科における学習内容と関連する。また、各教科における学習内容や、基礎的・基本的な知識や技能を、総合的に融合・発展させることが可能である。

(エ) 評価の観点

- 社会的な広がりをもつテーマについて、調べる過程で深く考える。
- まとめる段階で、公的な言葉を用いつつ、わかりやすく説明できる。
- 発想法、調べ方、情報・文献の扱い方、表現方法、発表の方法等の技能を身に付ける。
- 分担した仕事を、執筆期限や執筆字数も含めて、スケジュール通りにやり遂げる。
- チームとしての活動の中で、場面に応じてリーダーの役割を果たす。また、フォロワーとしての役割を果たすことによってリーダーを支え、協力してチームの目標を実現する。

ウ 検証授業の実施計画

(ア) 対象学年 第2学年 計14名を5チームに編成

(イ) 実施日時 平成17年10月6日(木) 第6校時

(ウ) 実施場所 普通教室

(エ) 本時の学習 チームごとに発想メモを作成し、企画書の準備を行う。

本時は、学習プロジェクト「本の制作」に基づいて、レポート作成を学ぶという単元全体の導入部である。前時に、社会的な広がりのあるテーマを選ぶように指導し、生徒は個別に調べたいテーマを決定した。さらに、共通の要素をもつテーマをグルーピングして2～4名の課題別グループを作った。また、グループ学習の基盤となる、グループ内の人間関係を構築し、生徒同士の円滑なコミュニケーションが図れるように、ミニゲームや自己紹介メモ、発想メモ等のワークシートを活用する。

(注) この発想メモとは、大きめの用紙の中央部分に中心となるテーマを書き、その語句から連想される言葉を丸や四角などで囲みながら次々に書き加え、それを線でつなげていく「図式のメモ」のことである。この発想メモは、発想法としても有用だが、考えを整理したり、グループ内で互いの考えを共有したりする場合にも有効である。

(オ) 本時のねらい

課題別の学習グループをプロジェクト実現のための結束力あるチームに発展させ、次の段階の企画書作成につなげる。

(カ) 配付資料 本時のレジュメ ワークシート：自己紹介メモ、発想メモ、企画書

(キ) 授業展開の概略

導入	レジュメを使い、各自が選んだ課題や研究したいテーマを確認する。 A 日本経済研究チーム：4名（郵政民営化、消費税、産業の技術継承等） B メディア問題研究チーム：2名（著作権、視聴率等） C 地震研究チーム：3名 D 自然災害（地震以外）研究チーム：2名 E 少子化問題研究チーム：3名
展開	・言葉を使わずボディアクションだけで一列に並ぶ「ミニゲーム」を行う。 ・チームに分かれ、リーダーを決める。チームリーダーは司会も兼ねる。 ・チームごとに、前回作成した自己紹介メモと発想メモを回し読みし、コミュニケーションを図りつつ、研究内容を決め、チームごとの発想メモを作成する。 ・チームごとの発想メモを基に、企画書を作成する。
まとめ	自己紹介メモと発想メモを提出する。企画書作成について確認する。

(ク) 検証授業の考察

(成果)

- 構成的グループエンカウンターで開発されたミニゲームや、「私の好きなもの」を書き込んだ自己紹介メモは、導入期のコミュニケーション手段として有効である。
- ワークシートは、指導者の指示及び生徒の学習過程や結果が記録として残るだけでなく、考え、書き込むという行為を要求するため、学習者の主体化を側面から支える手段として、重要な役割を果たすことを確認した。
- 調べたり学んだりしたことを、他の生徒たちや社会に、どう還元するかを議論するグループが現れるなど、教科横断的、社会的な広がりをもつテーマの重要性が確認できた。

(課題)

- 3名以上のグループでは活発に議論を深めていたが、2名のグループは、発想や議論の発展性という点では課題が残った。豊かな発想を促すには、3～5名が適当である。
- グループの結束力が十分に高まらないなど、自分たちで計画していたとおりにいかない場合、リーダーに助言し、解決策を気付かせる等の教師の支援が必要である。

(5) 考察

ア 成果

- (ア) 興味・関心に基づいた、一定の社会性をもつ個別の課題やテーマをグループ学習で追究する中で、生徒は、自ら学び、自ら考えていく力を養うことができた。
- (イ) 諸活動の中で、次のような能力が生徒に身に付くことがわかった。

- 調べたことをもとに執筆する中で、表現能力
- グループ活動を通じて、コミュニケーション能力や場面に応じたリーダーシップ能力
- 活動に対する「振り返り」を適宜行う中で、反省・内省力等のフィードバック能力
- 共同制作に対し相互評価を行う中で、評価能力

イ 今後の課題

今回、自ら学び、考え、計画・実行し、体験するなど、生徒が主体的に活動することで、理解度・定着度が上がり、様々な力が身に付くことがわかった。しかし、生徒一人一人を「成熟した個」に育てるという大きな課題については、緒に就いたばかりである。今後も個に応じた指導の実践的な方法を研究し、効果的な指導法を開発していく必要がある。

●ステージⅡ 生徒の進路選択に必要な能力を高めるための学習活動

【実践事例3】 2週間の短期集中講座における学習活動の効果

(1) テーマ設定の理由

本校は開校2年目を迎えた、「進路保証」、「国際交流」、「情報発信」、「社会貢献」を教育方針にもつ進学型の全日制総合学科高校であり、生徒の進学目標を達成させるための教育課程を中心に、特色ある選択科目を展開している。また、総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」（本校では「サクセスプランニング」）によって、生徒の自己理解・分析や将来の進路選択に関する考察を行わせ、総合的な学習の時間での様々な講座から、より自分の進路希望に近いものや興味・関心の高いものを選択させている。

本研究では、「生徒が主役となる学習活動」としての総合的な学習の時間の在り方を検討するとともに、「生徒の進路選択に必要な能力を高めるための学習活動」について考察する。

(2) 研究のねらい

総合学科高校は「自分探しの旅ができる学校」といわれているが、本校の生徒の学習に向かう姿勢は受け身的な傾向がある。しかし、実施したアンケートでは、「問題解決能力や責任感をほしい・達成感をほしい」との意見も多かった。学校の教育力に留まらず、企業や専門的な知識・技能をもつ校外の連携先の教育力を生かした多様な活動を通じて、生徒の自ら学び考える意欲を喚起し、将来の進路目標を設定するための指針となることを目指す講座の設定が必要である。

そこで、生徒が自身の進路決定に際して、主体的に進路選択の視野を広げ、進路目標設定の能力を育成するための総合的な学習の時間のモデルケースを検討していく。

(3) 研究仮説

生徒に目的意識をもたせ、自らの進路について考察する能力を高める学習の実践と、「産業社会と人間」との同時期の履修で、進路目標の設定や目標実現に向けた学習がより現実的なものとなる。

(4) 指導事例

ア 授業計画

(ア) 指導のねらい

広く社会活動を実地で体験することにより、知識及び技能を深め、進んで社会に貢献しようとする姿勢を培い、自己の進路・職業選択に役立てさせる。

(イ) 年間計画

○原則履修科目「サクセスプランニング」との関連

1、2年の各年次で「サクセスプランニング」各1単位、総合的な学習の時間各2単位の受講を通じて、進路目標の実現に向けた学習計画を立案させ、総合的な学習の時間で具体的な進路目標の達成に向けての学習を実践させる。

○1年間の履修の流れ

時期	サイクル	教師の活動	生徒の活動
4月 ～6月	Plan	「総合的な学習の時間検討委員会」による学習指導方針、実施講座の検討と担当者の決定	[サクセスプランニング] [1年次] 自己理解・分析
7月 ～8月		担当者による講座の実施計画の検討・作成	将来の進路目標の設定 [2年次] 進路実現に向けた学習計画作り
9月 ～11月	Do	講座選択後の人数調整、決定者の事前指導、事前学習	[全年次] 講座の選択、事前学習等
12月 ～3月			講座の実施、事後指導、報告書作成
	Check	評価（学習成果等を個別に作成・提示）	[全年次] 評価（自己評価、授業評価など）
	Action	次年度に向けた課題と改善点の検討、次年度への引き継ぎ資料作成	[全年次] 講座を受けての感想・反省・改善等の提示

(ウ) 実践講座（平成 16、17 年度）

平成 16 年度は 8 講座実施し、平成 17 年度は第 2 学年 480 名相当の生徒に同時に履修させるために、前年度の講座に 10 講座を加えて計 18 講座で実施する。ここでは、平成 16 年度の実践事例について示す。

(エ) 「看護・福祉体験研修」の学習計画

第 1 週	学習内容	第 2 週	学習内容
1 日目	日本赤十字社の講習 ○〔家庭看護法〕を学ぶ	6 日目	大学附属病院・施設の見学・実習 ○大学学部の概要説明
2 日目 ～4 日目	日本赤十字社の講習 ○〔救急法救命員〕の資格取得	7 日目 ～9 日目	○附属病院における診療現場の見学 ○口腔内科の体験実習 など
5 日目	一日看護師体験 ○病院での看護師業務の体験	10 日目	個人で報告書の作成 グループでプレゼンテーションを作成・発表

イ 研究内容

(ア) 学習テーマ 「看護・福祉体験研修」講座における看護分野に関する学習

(イ) 単元のねらい

医療の現場における看護師の役割を知り、看護師体験や看護学校などでの実習等を通じて、看護に関連する職業に対する理解を深める。

(ウ) 各教科との関連

教科(科目)	学習内容・分野
保健体育(保健)	生涯を通じる健康の分野
家庭(家庭基礎)	人の一生と家族・福祉
情報(情報 A・B・C)	情報の収集・発信と情報機器の活用(A)、問題解決とコンピュータの活用(B)、情報科の進展と社会への影響(C)
商業(課題研究)	産業現場等における実習

(エ) 評価の観点

- 講座への積極的な取組み。
- 職業に対する理解。
- 将来の職業選択の参考にする。
- 自己の課題の整理と解決方法の考察

ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

- 対象学年 第1年次(13名)
- 実施日時 平成16年12月第1週5日目
- 実施場所 実習先の病院
- 本時の学習 「一日看護師体験」
- 本時のねらい 看護師体験を通じて、職業としての看護師の役割を知る。
グループで体験したことを発表資料にまとめ、未体験の生徒にプレゼンテーションする。
- 資料及び準備 白衣、体操着、カーディガン、学習のしおり等
- 授業展開 少人数のグループに分かれ、病院並びに附属施設における体験を行う。
- 検証授業の考察

(生徒の感想) 病院では医師や看護師だけではなく、様々な役割をもった人々が働いていることを改めて知った。

(自己評価の分析) 看護師という職業の実務面での大変さを学んだ生徒が多かった。

(成果と課題) 業務体験を通じて看護の仕事に対する理解を深めることができた。

入院患者の方達のプライバシーにかかわるため、コミュニケーションが制限され、具体的な看護実習ができなかったことが課題である。

(5) 考察

ア 成果

- (ア) 病院での看護師体験の他、大学附属病院や大学施設の見学・実習を通して、医療・看護の現場に携わる者の責任の重大さと実務を体験的に理解することができた。
- (イ) 大学や看護専門学校において、どのような専門知識や技術の習得が行われているかを理解することができた。
- (ウ) 進路目標の設定や進路実現に向けた計画作りの大切さを学ぶことができた。

イ 課題

- (ア) 講座の内容や実施報告・評価等を踏まえて、その年の反省や問題点を洗い出し、検討結果を次年度への企画・立案に生かす学習マネジメントサイクルを確立すること。
- (イ) 委員会における方針作りや講座の設定、担当者の決定など、遅くとも年度の始めには決定しておく必要があること。
- (ウ) 1年次生には、進路目標が定まらない生徒もおり、「サクセスプランニング」の時間を活用して、自身の進路決定に関する取組みを前期に重点的に行うなど、総合的な学習の時間との関連を十分に図ること。

【実践事例 4】

グループディスカッションを活用したコミュニケーション能力の育成

(1) テーマ設定の理由

総合学科である本校は、3年次から「福祉活動」と「課題研究」を総合的な学習の時間に位置付けている。また、チャレンジスクールである本校では、コミュニケーション能力の育成が必要不可欠であると考え、人間関係づくりの活動の場を設定している。このような能力は進路選択にも影響を与える。例えば、人と関わることの喜びは進路決定の動機付けとなる場合がある。1年次は「産業社会と人間」で、体験学習を通して自己を見つめるところから将来を考え始めた。これらの学習の中で生徒は、仲間と協力しながら課題に取り組むことを学んだ。そして、人間関係づくりでは、スクールカウンセラーの協力を得ながら、生徒同士が本音を語り合う場を提供する構成的グループエンカウンターを取り入れ、ロールプレイングを経験した。

このように本校では、1・2年次の「産業社会と人間」や「地域理解」で、進路学習に関連させてコミュニケーション能力を高める工夫を行い、総合的な学習の時間において、さらに進路選択能力を高める活動を考える必要がある。

本研究では、進路相談部やスクールカウンセラーとの連携を前提に、構成的グループエンカウンターの活動を取り入れた、コミュニケーション能力を育成する3年次の授業を考察する。

(2) 研究のねらい

グループディスカッションにおける意見交換等を繰り返し行い、学習のまとめとして、感じたことを仲間と語り合うこと（以下、このような活動をシェアリングとする）によって、他者の意見から気付いた新たな発見を自分の在り方・生き方に生かすなどして進路選択能力を育成するための学習活動を研究する。

(3) 研究仮説

ア コミュニケーション能力を身に付ける取組みを継続的に行うことは、生徒の自信や自分自身の在り方・生き方の発見につながる。

イ 1・2年次の「産業社会と人間」、「地域理解」を経て、進路学習と関連させた総合的な学習の時間が、生徒の進路選択能力をより高める。

(4) 指導事例

ア 授業計画

(ア) 本校における進路指導と関連させた学習の流れ

- 1年次 産業社会と人間
- 2年次 地域理解
- 3年次 総合的な学習の時間：課題研究及び福祉活動
- 4年次 総合的な学習の時間：課題研究

(イ) 年間授業計画

3年次では、「課題研究」（1単位）及び「福祉活動」（2単位）が実施される。「福祉活動」では身近な福祉活動を考え、体験学習を取り入れることが計画されている。一方、「課題研究」では、将来の進路や自分の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、生徒自ら資料収集、調査、研究を行う主体的な学習が必要である。このなかで、コミュニケーション能力を高める

活動として、進路に関連したグループディスカッションを行う機会を設定する。

イ 研究内容

(ア) 指導体制の工夫

担当教員による定期的な指導や進路相談部からの支援が必要である。また、グループディスカッションでは、スクールカウンセラーの協力を得ながら、生徒の実態に合わせたテーマを設定し、生徒が本音を語り、仲間や教員と交流することができるようにする。

(イ) 学習テーマ 「人生シミュレーションゲーム」について

「課題研究」の研究テーマは、各生徒の興味・関心に基づきテーマを選ぶが、自己の進路をテーマに選ぶ生徒も多い。そこで、3年間で卒業を計画する生徒がいることも考慮し、様々な職業について考える時間を設ける。「課題研究」では、基本的に一人で研究を進めていくことになる。しかし、身近な仲間と本音を交えて自分たちの夢を語り合い、職業観や社会への視野を広げる場면을意図的・計画的に設定することによって、個々の課題研究にも豊かな活力をもたらすと考える。

(ウ) 単元のねらい

- 自分にとって興味のある職業だけでなく、様々な職業があることを知る。
- 自らの人生設計を現実的に考える。
- グループディスカッションを通し、話し上手・聞き上手になる。
- 場面状況を把握し、自分の役割を見出す。
- 進路目標に向けての学習意欲を促す。

(エ) 評価の工夫

評価方法として、振り返りシートでの生徒による自己評価を行い、以下の観点から活動を振り返る。

- 自分の意見をまとめ、他者への確に伝えることができる。
- グループディスカッションに積極的に参加できる。
- グループ内でリーダーシップをとって意見をまとめることができる。または、グループ内で自分の役割を見付け、それを果たすことができる。
- グループディスカッションを経て、進路目標に向けた新たな学習計画を設定することができる。

ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

- 対象学年 3年次
- 実施日時 3年次 5月～6月
- 実施場所 普通教室
- 本時の学習 人生シミュレーションゲーム ー教員への道編ー

次のテーマについてグループディスカッションを行い、グループ毎に発表する。活動の最後にはシェアリングを行うことにより、自己理解を深める。

都立高校の教員になるには？

あなたは28歳。現在、都立高校の教員として充実した生活を送っています。さて、あなたはこれまでどのような人生を送ってきたのでしょうか。あなたの人生を振り返ってみましょう。

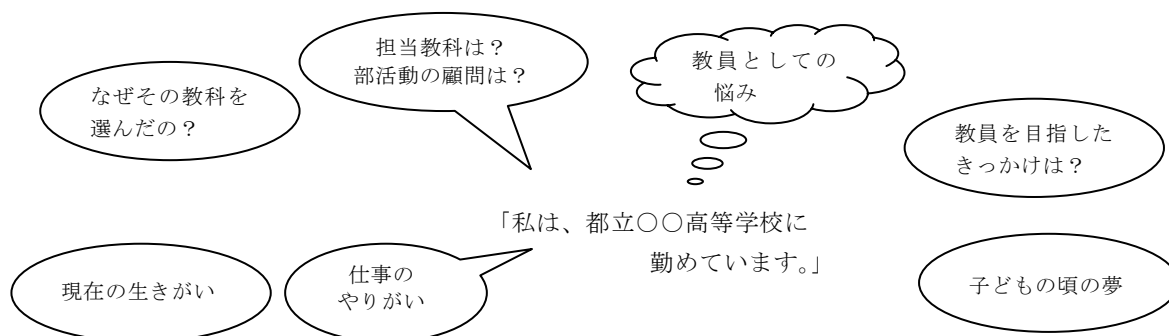
○本時のねらい

- ・自分の考えをまとめ、相手に伝える能力を高める。
- ・人の意見によって自分を見つめ直し、そこで得たものを進路選択の能力の育成につなげる。
- ・高校卒業後の進路を、現実的にとらえる。

○授業展開

	学習活動の内容	生徒の学習活動	教員の支援	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のグループディスカッションのテーマを説明する。 ・グループを編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・今日の活動のねらいを明確にする。 ・グループ分けを円滑に行うための支援を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞き、自分の活動目標を設定することができる。 ・自ら進んで仲間とコミュニケーションをとることができる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションを開始する。 ・「教員への道」の具体例の情報収集を行う。 ・各グループ、発表のための準備を行う。 ・各グループが順次、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をまとめ、発表する。 ・教員へのインタビュー活動を行う。 ・発表方法を検討する。 ・発表におけるグループ内での役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの円滑な進行状況の確認及び支援を行う。 ・インタビューを受け、具体例を提示し、実現への方策を考えさせる。 ・発表方法の助言をする。 ・プレゼンテーションの助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言し、相手の意見を聞いている。 ・グループ内での役割を把握し、活動している。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をする。 ・コミュニケーション編 ・学習編 ・シェアリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の活動について自己評価をする。(振り返り) ・グループ内で今回の活動の感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、進路決定に向けて具体的に何ができるかを考えさせる。(教科・進路相談部の支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でリーダーシップをとって活動できる。また、自分の役割を見出し、実行することができる。

○教員へのインタビュー項目の例



(5) 考察

本校で実施した総合的な学習の時間に関する意識調査から、ボランティア体験や職場訪問等、体験的な学習を求める生徒が多いことがわかった。また、それらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることが必要と感じる生徒もいる。生徒は、グループディスカッションを通して、人間関係を築きながら社会性を身に付け、同時に進路について考えていく。教員は、このような進路選択能力を育てる活動を継続的に行い、生徒を支援していく必要がある。

●ステージⅢ 生徒の総合的な能力を高めるための学習活動

【実践事例5】

異なる地域・文化の研究を通してコミュニケーション能力、発表する力を高める

(1) テーマ設定の理由

本校の学校経営計画では、生徒に身に付けさせたい力として「生徒が希望する大学に入学できる学力を付けるとともに、大学入学後、さらに成長するために必要な総合的な能力」を掲げている。また、その総合的な能力を身に付けるため、「実験・実習・体験を重視し、生徒が自ら考え行動する力」と「生徒と教職員が十分なコミュニケーションを行い、さらに家族、地域の人々、世界の人々と活発にコミュニケーションを行い、コミュニケーション能力を高めること」も本校の目標としている。

そこで、校外学習や修学旅行先の地域研究を通して、地域の人々から学び、プレゼンテーションソフトを活用するなど、様々な方法で研究成果を発表することによって、生徒の総合的な能力を高める学習活動について考察する。

(2) 研究のねらい

コミュニケーション能力を高める方法の1例として修学旅行を通じた学習活動を取り上げる。高校生活の中で、異なる地域・文化を体験できる機会の1つに修学旅行が考えられる。

また、発表する力については、修学旅行先の地域研究の過程で、生徒が自発的に課題を設定し、プレゼンテーションソフトを活用するなど、様々な方法で調べた内容を発表し、相互にアドバイスし合うことによって身に付くことを明らかにする。

(3) 研究仮説

ア 地域研究をする際に、他教科との関連を図ることで生徒の理解力が深まるであろう。

イ 修学旅行委員会を中心とする学習活動、グループ学習によるテーマの設定・調査・まとめ・発表により、生徒の発表する力など総合的な能力が高まるであろう。併せて、修学旅行先の人々からの聞き取りや、他校の高校生との交流によってコミュニケーション能力も高まるであろう。

(4) 指導事例

ア 授業計画

(ア) 3年間の体系的な指導のねらい

《第1学年》 校外学習で行く地域の研究テーマを決定し、事前研究、現地調査、研究報告としての発表を行う。

《第2学年》 修学旅行先の地域研究と発表を行う。

《第3学年》 修学旅行先の地域研究報告集の作成を行う。

(イ) 年間授業計画(第2学年)

第1学年の校外学習の地域研究・発表で身に付けた総合的な力をさらに発展するため、第2学年に修学旅行と総合的な学習の時間とを関連させて地域研究・発表を行う。

○修学旅行までの事前学習

・下記のようなテーマを生徒に例として示し、生徒は関心をもったテーマを設定して調べ始める。各教科の教員は生徒の調べ学習に対して助言を行う。

例	国語	方言、その地域を題材とした作品等	理科	地学、生物等	芸術	音楽、美術等	家庭	民族衣装、郷土料理、調理実習
	地理歴史・公民	地理、歴史、文化、産業等	保健体育	民族舞踊、マリンスポーツ等	英語	その地域を題材とした英文の翻訳等		

・総合的な学習の時間の中で、修学旅行委員はコース別の地域研究を行い、プレゼンテーションソフトなどを活用して各コースの見所を生徒たちに紹介する。各グループは図書室やパソコン室で、グループ行動日の研究テーマを文献やインターネットを利用して研究する。

○修学旅行中

・グループ行動当日に調査、聞き取りをした内容を整理しておく。

○報告集の作成

(事後学習)

・旅行中に調べてきた内容を、文献やインターネットでさらに深く探究し、課題に対するまとめを行う。

(発表)

・グループの課題について結論をまとめ、パソコンに入力してプレゼンテーションソフトなどで発表できるようにする。「情報」の時間なども準備にあてる。

・修学旅行委員の準備、進行でクラス内の発表会を行う。生徒は各グループの相互評価を行い、クラス代表のグループを選出する。

・クラス代表による学年発表会を修学旅行委員の準備、進行で行う。

(地域研究報告集の作成)

・各グループの研究を論文としてまとめ、修学旅行委員の編集によって「修学旅行地域研究報告集」を作成する。

イ 研究内容

(ア) 学習テーマ 「修学旅行先—沖縄の地域研究発表会を行い、研究報告集を作成する」

(イ) 単元のねらい

修学旅行先の地理・歴史などを調査・研究する過程で他教科との関連を深め、研究内容を高める。また、クラス内・学年と発表会を重ね、生徒同士で相互にアドバイスし合う中でプレゼンテーション能力を高める。

(ウ) 各教科との関連

上記の表に例として示したとおり、各グループは研究テーマを設定、研究していく過程で、各教科の教員に指導・助言を受ける。各教科の教員はその専門分野に関連する部分で研究・発表・報告集作成に至る過程をとおして指導・助言を行う。事前研究後の発表会では「情報」、報告集作成では「国語」との関連が強まる。

(エ) 評価の観点

○グループ活動・・・主体的に参加し、テーマを設定し、発表するために貢献した。

○調査研究・・・テーマの設定や調査研究に積極的に取り組んだ。

○発表会・・・グループの発表で、自らの役割に責任をもって遂行した。

○課題の発見・・・課題を発見することができた。課題解決のため主体的に取り組んだ。

ウ 検証授業の計画

(7) 授業実施計画

- 対象学年 第2学年
- 実施日時 平成17年12月7日(水) 第5校時
- 実施場所 普通教室
- 本時の学習 「修学旅行先 沖縄の地域研究—クラス内発表会」
- 本時のねらい 研究してきた内容をグループごとに発表するとともに、相互にアドバイスし合い、プレゼンテーション能力を高める。
- 資料及び準備 プレゼンテーションソフト、スクリーン等
- 授業展開
 - ・司会進行は修学旅行委員が行う。
 - ・グループごとの発表を行う。テーマは以下の内容である。
 - 「沖縄のサンゴ」、「沖縄の食文化」、「やんばる野生生物の保護」、「沖縄の観光」
 - ・生徒は各自、「発表評価用紙」に記入して発表者にアドバイスをする。評価の観点は次にあげるような内容である。「内容が深く、よく調べられている」、「わかりやすい説明である」、「十分な資料収集」、「発表の方法が工夫されている」等。また、「感想、よい点・改善点」などのアドバイスも記入する。

(4) 検証授業の考察

- 発表は、現地調査で新たに見つけ出した疑問点を、修学旅行後に文献や現地への問い合わせで解決したものであり、内容が深まっていた。
- 生徒同士のアドバイスはお互いのよい点を評価し、建設的な立場から改善点を指摘したものであった。その結果、次の段階であるクラス代表による学年発表会では、さらにわかりやすい発表に改善されていた。

(5) 考察

ア 成果

「サンゴ」や「野生生物の保護」の研究では、沖縄の海や森の自然破壊にまで考察を深めていた。「食文化」では、豚肉と昆布などの海藻が栄養分を補い合いバランスをとることを調理実習で体験した。「観光」では、観光産業に依存する一方、第一次産業で後継者不足が深刻化している点、第二次産業で本土からの工場誘致が困難なことを指摘し、伝統産業を生かす道が改善につながると提言していた。以上の成果は、生物、家庭科、地理歴史・公民科の教師にアドバイスを受けた結果、実現できたものであり、「総合的な学習の時間」のねらいが達成できたと考える。

修学旅行委員やグループを中心にしてテーマの設定・調査・まとめ・発表を行った結果、生徒の相互に高め合っていこうとする意識が強まり、生徒のプレゼンテーション能力など総合的な力が伸びた。

イ 今後の課題

各グループのプレゼンテーションに対する質疑応答が活発ではなかった。それは自分たちのグループの研究・発表に集中する一方で、他のグループの研究テーマに関心を持ち、視野を広げる点が不十分であったと考えられる。この点については修学旅行委員が『修学旅行ニュース』の中で、各グループの研究テーマを載せることで克服できると考える。

【実践事例6】 グループ活動で取り組むプロジェクト学習

(1) テーマ設定の理由

総合的な学習の時間は、学習者が自ら問題を発見し、その問題と自分あるいは社会とのかかわりや各教科で学んでいることとのかかわりを認識する。その上で、将来のキャリアを視野に入れつつ、課題の解決に取り組む。その活動から生きる力を身に付けるものである。

生徒は、総合的な学習の時間の中で課題解決のために必要とする知識や解決のためのスキルを積極的に獲得しなければならない。そのためには、グループ活動を展開し、内発的動機付けによる学習態度を身に付けさせることが必要である。その学習態度が、生徒が主役となる授業展開である。

(2) 研究のねらい

各教科等の授業で獲得した知識を活用する場が総合的な学習の時間である。したがって、この2つは相互に関連し合うことで効果を発揮すると考え、次の5点について検証する。

- ア 自分と社会とのかかわりの中で、現在の学習がどのような意味をもつのかを実感させる。
- イ 単なる調べ学習ではなく、他の教育活動との統合を図る。
- ウ 自ら描く将来のキャリアを実現するために必要な学びを自覚させる。
- エ グループ活動で、総合的な学習の時間で身に付けるべき諸能力を獲得させる。
- オ テーマの設定や活動後の振り返りに関して、個に応じた指導を工夫する。

(3) 研究仮説

- ア 学校で行われる教育は、各教科等の活動が単独で行われるのではなく、それぞれを統合することで、その成果を発揮する。
- イ グループ活動において、生徒が主体的に活動することで得たものは定着する。
- ウ 自らの役割を自覚させるグループ活動で、生徒は主体的に学ぶようになる。
- エ 総合的な学習の時間での活動を振り返り、身に付けたことを整理し、不十分な部分を自覚させ、各教科等との関連を認識させる。この活動を通して、総合的な学習の時間だけではなく、教科等の授業にも目的をもって主体的に学ぶようになる。

(4) 指導事例

ア 授業計画

(ア) 3年間の体系的な指導のねらい

第1学年は、調査の仕方やプレゼンテーション、ディスカッションなどプロジェクトを実施するための基本を身に付ける。第2学年では、あらかじめ例示されたプロジェクトを実施し、グループ活動の方法を身に付ける。後期は、核となるテーマからグループごとにテーマを考え、活動を行う。第3学年では、グループでのプロジェクト学習を繰り返し、学習の定着を図る。

学年	ねらい	前期	後期
1年	グループ学習や討論・発表などの基礎・基本を学ぶ。	グループ活動の方法を学ぶ。	調査やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。
2年	グループで課題を発見し、調査研究を行う。	プロジェクトを選択して活動する。	グループでプロジェクトテーマを考え活動する。
3年	グループリーダーを中心にプロジェクトに取り組む。	グループテーマでのプロジェクト活動を行う。	グループテーマでのプロジェクト活動を行う。

(イ) 研究内容

生徒が主体的に活動し、各教科等との関連を認識させるため、次の学習方法が考えられる。

○授業展開基本パターン

展開	事例
1 学年や前期・後期ごとに核になるテーマを指定する。	・学校の環境について考えるプロジェクト ・地域の環境改善を提案するプロジェクト
2 各グループでテーマを絞り込む。	・身障者と共生するための街づくりの提案 ・学校のリサイクルシステムづくり
3 グループごとにミーティングを行い、研究の成果をまとめる。	・計画的な調査研究 ・クラス発表会の定期的な実施
4 発表を繰り返し、内容を深める。	・年2回の学年発表会の実施

○グループで研究テーマを設定し、調査研究を行いながら、プロジェクトを完成する。活動はグループリーダーを中心に行い、事前にリーダー研修を実施する。

○グループ活動は、次のようなワークシートに従って展開する。

- ・プロジェクト学習企画書・・・グループで取り組むプロジェクトの計画や経過のシート
- ・学習プロフィール・・・総合的な学習の時間と教科等との関係を明確にしたもの
- ・リーダーマニュアル・・・グループ活動について書いたもので、リーダー研修のテキスト
- ・研究発表大会評価表・・・研究発表の聞き取りシートと自己評価シート
- ・振り返りシート・・・グループでの研究活動を整理し、新しい課題を発見するシート

次ページに、プロジェクト学習企画書、研究発表大会評価表、学習プロフィールを示す。

○発表会・・・調査・研究の成果は随時クラスで発表を行う。学年単位での発表会を前期・後期それぞれ1回ずつ実施する。1人3年間で5テーマのプロジェクトに取り組む。

(ウ) 各教科等との関連

総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識させるために、計画の段階からプロジェクトを遂行するにあたり必要な力を整理させ、学習プロフィールをもとに、どの教科等に関連するかを認識させる。また、プロジェクトを進める中でアドバイザーの教師を指定させ、常に教科等とのかかわりを考えさせる。このことから、ほとんどの教科等と関連がでてくる。

(エ) 評価の観点

- グループ活動・・・主体的に参加し、プロジェクトをまとめるために貢献した。
- 調査研究・・・テーマの設定や調査研究に積極的に取り組んだ。
- 発表会・・・グループの発表で、自らの役割に責任をもって遂行した。
- 課題の発見・・・課題を発見することができた。また、課題解決のため主体的に取り組んだ。

(5) 考察

ア 成果

リーダー研修を行うことで、グループ活動がスムーズに展開した。また、一人一人の生徒が活動内容を把握できるようワークシートを使用したので、生徒が主体的に活動できた。ワークシートは、常に各教科等との関連がわかるように工夫したので生徒の認識も深まった。

イ 今後の課題

リーダーの事前研修で内容を把握しきれなかったグループがいくつかあった。各教科等の授業に目的をもって主体的に学ぶようになったかどうかは継続的に調査する必要がある。

プロジェクト学習企画書

プロジェクト学習企画書 (例) ワークシート1

年	組	番	氏名	日付	年	月	日
グループメンバー			(リーダー)				
<p>プロジェクト コアテーマ</p> <p>プロジェクト グループテーマ</p> <p>グループテーマ設定の理由</p>							

コアテーマについて、グループで相談し、グループの研究テーマを決める。

グループテーマ設定の理由を考える。これからの研究や発表の核となるところなので時間をかけた。

1. このプロジェクトを通して得られることや解明できる(わかる)ことを予想し、箇条書きで最低3項目以上記入しなさい。

2. 具体的な調査方法 ※グループで意見を出し合い考える。

これを基に、各自、調査研究を行うので、インタビューや資料収集の方法について討論をさせる。

3. このプロジェクトで身につけることのできる力を予想し、箇条書きで最低3項目以上記入しなさい。

具体的活動 (「〇〇をして))	身につく力 (「〇〇の力が身につく))	関連する教科・科目
1		
2		
3		
4		
5		

4. 次回グループミーティングまでの課題と役割分担

<何を> <どこで> <担当者>

<情報源> 情報源をチェック 印刷物(本雑誌) 電子情報(ウェブ・ビデオ・音声) 取材(インタビュー等 人から話を聞く)

<期日> 月 日 () までに調べる。

<アドバイザー> アドバイスを受ける先生

誰がどうするといった、具体的なことを決めさせる。いつまで実施するかという日程と各教科等とのかかわりを認識させるため、アドバイザーを指定させることがポイントとなる。

グループミーティング自己評価表 ワークシート2

氏名	組	番
1. 私の取材内容報告。 (カードをまとめる。カードはみんなに発表できるように簡潔に記入する。)		
取材した人		
取材内容		
さんの取材 (発表を聞きながら)		
さんの取材 (発表を聞きながら)		
さんの取材 (発表を聞きながら)		
さんの取材 (発表を聞きながら)		
さんの取材 (発表を聞きながら)		
さんの取材 (発表を聞きながら)		

グループミーティングで使用するワークシートである。調べたことをグループの中で発表させ、みんなでまとめさせる。リーダーを中心に実施することがポイントである。

2. グループミーティングの中でカードを決る順番をまとめる。

① 同じような意見をまとめ、いくつかの山に分ける。
② それぞれの山に見出しを付ける。

見出し
見出し
見出し
見出し
見出し
見出し
見出し

3. グループの中で一番うまくインタビューした人は?

4. カードをグループ分けするときの結論に分けられた

5. カードをグループ分けするときうまくいった

6. 今回のグループ作業でどの程度、自分の意見を述べることができましたか。その意見はどの程度グループの意見として反映されましたか。

7. あなたは、どの程度他人の意見を聞くことができていましたか。

8. あなたの付けた見出しはどの程度グループの見出しとして採用されましたか。

研究発表大会評価表

プレゼンテーション自己評価用紙

日時：平成 年 月 日 () 時間 時

テーマ

判定項目	発表者の自己評価 (5段階評価)	集まったカードの合計 (A)	平均点 (A) ÷ 集まったカード数
声の大きさ (聞き取れる大きかった)	1-2-3-4-5		
間の取り方・スピード・姿勢	1-2-3-4-5		
男女平等社会についてわかった。	1-2-3-4-5		
納得できる報告だった。	1-2-3-4-5		
反論に対して的確に答えていた	1-2-3-4-5		
合計		点	点

アドバイス・感想をまとめる

平均点の合計 ÷ 5

発表についての反省点をまとめ、次回の修正ポイントをまとめさせる。具体的に書かせるようにする。

次回プレゼンテーションで注意すること

感想

学習プロフィール

学習プロフィール	身に付く力	具体的内容	具体的活動
国語	複雑な情報を読み、見る	情報を読んで理解する。図表などを読み解く。	収集した資料の内容を理解する。情報は印刷物・電子媒体・取材の3つがある。
	専門的な情報を見つけ出し読み、見る	調べたいテーマの情報を見つけ出し、読み解く。	収集した資料から研究テーマを解決するために必要なものを選択する。
	インタビューなどで話を聞き出す	調べたいテーマについて適切に質問し答えを聞き取る。	インタビュー項目を考え、随時応答に質問を行い研究に必要な情報を聞く。
	相手にわかるように書く	記述内容が相手にわかるように書く。	プレゼンテーションの資料を作成したり、シナリオを書く。
	論理的に書く	結論や主張の根拠(理由)が明確に語られている。	主張を明確にし、原因や根拠をわかりやすく書く。
	段落構成を意識して書く	3段階または4段階の段落構成ができている。	調査研究報告書やプレゼンテーションの資料、原稿など段落を考えて書く。
	ディスカッションで相手の話を理解し(踏まえる)自分の意見を表明する	自分の意見をまとめて相手にわかるように言葉で表現する。	グループで研究成果をまとめるグループミーティングで相手の意見を聞き自分の意見を発表する。
	プレゼンテーションを行う	表現を工夫してプレゼンテーションを行う。	グループ発表や学年発表の場でプレゼンテーションを行う。

学習プロフィールは、総合的な学習の時間における活動と各教科等との活動を関連付けるシートである。企画の段階から活動中、最後の発表まで常に意識させ、新しい発見があれば常に修正させるようにする。

この活動を通して、各教科等との連携が可能となる。

IV 指導モデル

生徒が主役となる授業を創造するために、「基礎・基本の充実」、「進路選択」、「総合的な能力」、「体験学習」の4つの学習活動を想定し、その中で「動機付けの工夫」、生徒の「主体的な活動」「振り返りの工夫」の3つの視点を充実させることが重要であると考え研究を進めた。

	基礎・基本の充実		進路選択
	体験学習	調査研究	体験学習
	実践事例1	実践事例2	実践事例3
活動内容	地域研究を行い「読む」「書く」「聞く」「話す」「計算する」など学ぶ力を身に付ける。	課題別学習グループで、本の制作やプレゼンテーション等の学習活動を行いながら基礎的・基本的な力を身に付ける。	2週間の短期集中講座で体験的学習を行う。多様な体験的な講座から自分のニーズにあった講座を選択し履修する。
特徴	①グループによる調べ学習から、基礎的・基本的な力を身に付ける。 ②グループでの発表を通して調べ学習の力を高める。	①グループによる調査や発表を通して、基礎的・基本的な能力を身に付ける。 ②プレゼンテーションの基本的な技術を身に付ける。	①「産業社会と人間」と並行して学習する。 ②オーストラリア短期留学やボランティア活動などの体験的学習を行う。
動機付けの工夫	①グループ活動が円滑に進むよう、各自の役割分担を考える。 ②グループリーダーを中心に、インターネットや図書館などでの資料の探し方について学習する。 ③修学旅行先の文化・芸術などの事前調査を行う。	①調査研究及び発表活動が円滑に行えるよう、構成的グループエンカウンターでグループの人間関係を構築する。 ②社会的な広がりのあるテーマを追究し、社会に対する興味を喚起する。 ③プレゼンテーションの楽しさ面白さに気付かせる。	①「産業社会と人間」、進路ガイダンスや講演会などに関連を図り、自分の将来の進路について考える。 ②自分の将来の進路を考慮し、多様な講座から選択する。 ③グループリーダーを中心に体験先の情報を調べ実習に必要な事前学習を行う。
主体的な活動	①リーダーは話し合いを通して常に調べ学習の進行状況を把握する。 ②グループリーダーを中心にフィールドワークを行う。 ③フィールドワークの成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。	①リーダーとフォロワーの役割を自覚して、本の制作やプレゼンテーション等を行う。 ②ワークシートに記述し、自分の考えを明確にする。 ③グループリーダーを中心にテーマを設定し、役割分担をして調査研究を行う。	①グループリーダーを中心にグループごとに役割分担し実習を行う。 ②活動後はその成果をレポート・論文としてまとめる。 ③グループごとに実習の成果をまとめ、プレゼンテーションを実施する。
振り返りの工夫	①プレゼンテーションでの質問等から、改善を行いシートにまとめる。 ②調べ学習やプレゼンテーションについて振り返り問題点を整理し、新しい課題を設定する。	①振り返りシートで、活動をまとめ、自分とグループの到達点を確認する。また、教科の授業との関連を整理し、次の課題を明確にする。 ②学習成果をプレゼンテーションの形式で発表する。	①短期集中講座での成果を生かし、実習後も継続して活動する。 ②課題として残された点について整理し、課題解決のための方法を考える。
評価	①グループ活動 【情意・態度】 ②調査研究 【知力・思考判断】 ③研究のまとめ 【知力・思考】	①グループ活動 【情意・態度】 ②調査研究 【知力・思考判断】 ③プレゼンテーション 【技能・表現】	①グループ活動 【情意・態度】 ②調査研究 【知力・思考判断】 ③研究のまとめ 【知力・思考】

※ 評価については、東京都教育委員会の「平成14年度『東京の教育21』研究開発委員会指導資料集」(平成15年2月)の145ページ「総合的な学習の時間における評価の全体構成を参考にした。

- (1) 動機付けの工夫…生徒の興味・関心を喚起し、意欲的に学ぶことの重要性を認識させる。
 (2) 主体的な活動…リーダーを中心にグループの中で自らの役割を自覚し、主体的に活動する。
 (3) 振り返りの工夫…これからの課題を発見し、解決のための個に応じたプログラムを作成する。

また、各教科の授業など、学校の教育活動とのかかわりを自覚し、今後の学校生活に生かす。

	進路選択		総合的な能力	
	グループディスカッション		体験学習	調査研究
	実践事例 4		実践事例 5	実践事例 6
活動内容	グループディスカッションを通して、在り方生き方について考える。		地域研究を行い、グループでの学習や交流など学んだことをまとめ、成果をプレゼンテーションする。	プロジェクト学習を展開する。グループごとに独自の課題を設定し、リーダーを中心に主体的に調査研究を行い発表する。
特徴	①「産業社会と人間」の学習を土台に学習する。 ②構成的グループエンカウンターを活用する。 ③スクールカウンセラーや進路指導部と連携する。		①体験することによって、学習をより深める。 ②東京とは異なる地域の人々から聞き取りをすることでコミュニケーションを深める。	①リーダー研修を行い、リーダー中心に活動する。 ②ワークシートを中心とした活動をする。 ③各教科等との関連を意識する。
動機付けの工夫	①構成的グループエンカウンターで、グループの意思疎通を図る。 ②卒業後の進路を考える。 ③「産業社会と人間」等の活動を振り返りながら、身近なディスカッションテーマを設定する。 ④できるだけ生徒の身近な題材を扱うなどして興味・関心を喚起する。		①テーマ事例の紹介などの場を設定するなどして、今後の学習のイメージを描きやすくし、生徒が積極的に活動に取り組めるようにする。 ②生徒が相談しやすいように、各教科等との連携を図る。 ③委員会活動と連携を図り、グループ学習やリーダーを積極的に活用する。	①構成的グループエンカウンターを行い、積極的にグループ活動ができるようにする。 ②過去のプロジェクトを研究し、イメージを膨らませる。 ③プロジェクトの意義や自分たちとのかかわり、獲得する能力や関連する教科等を考え、活動に対する興味・関心を喚起する。
主体的な活動	①グループで職業について考え、インタビューなどの調査をする。 ②「産業社会と人間」の学習を基に、職業について調べ、グループでリーダーを中心にディスカッションを行う。 ③職業など調べたことをまとめ、各グループ内で発表するなどして、各自の進路について視野を広げたり、勤労観・職業観を身に付けたりする。		①グループリーダーが中心となり、地域の見所を紹介するニュースやコース説明会を行う。 ②テーマ選択から、調査研究、まとめ、発表会実施までの運営を生徒が行う。 ③他校や地域の方との交流の場を設定し、生徒が運営する。	①グループ活動ではリーダーを中心にテーマ設定、役割分担や調査研究を行う。 ②ワークシートを活用し、リーダーを中心にグループでミーティングを行う。 ③プロジェクト発表会を生徒の企画運営で実施する。
振り返りの工夫	①シェアリングを行い、活動の感想を述べるなどして学んだことの定着を図る。 ②自分の進路選択について、さらに考え、今後、各自で準備する必要があることなどを整理する。		①学習活動における課題を整理し、解決策を考える。 ②発表の内容について各教科の教員からアドバイスを受け、各教科との関連を考えさせる。 ③プレゼンテーションの仕方など発表を振り返り、より効果的な方法等を考える。	①「プロジェクト学習企画書」を基に、自らの活動を振り返り、問題点を整理する。 ②個人の活動の内容と各教科等との関連を考える。 ③プロジェクト学習の反省から、新しい課題を設定する。
評価	①グループ活動 【情意・態度】 ②調査研究 【知力・思考判断】 ③プレゼンテーション 【技能・表現】		①グループ活動 【情意・態度】 ②調査研究 【知力・思考判断】 ③プレゼンテーション 【技能・表現】	①グループ活動 【情意・態度】 ②調査研究 【知力・思考判断】 ③プレゼンテーション 【技能・表現】

V まとめ

本部会では、普通科、総合学科、チャレンジスクールなど様々なタイプの学校が集まった。

学習指導要領のねらいを基に、生徒が身に付ける力として、各学校における育てたい生徒像を考慮しながら検討した結果、(1)基礎的・基本的な能力、(2)進路選択に必要な能力、(3)総合的な能力となった。

また、総合的な学習の時間は、様々な学習活動で得た能力を生かして、生徒が課題発見能力や問題解決能力等を発揮する学習活動である。生徒が主体となり学習活動を展開するためには、グループ学習等におけるリーダーの必要性とその育成、グループ内での自らの役割を見出して活動する生徒の育成が重要であると考え、本部会での研究テーマとした。

各学校では、教員及び生徒に対して、総合的な学習の時間に関する意識調査を実施した。教員においては、この学習活動は各教科の枠を越えた横断的な指導が期待できるが、必ずしも教員全員の十分な共通理解のもとで授業を展開しているとはいえない状況が分かった。

また、生徒においては、小・中学校での経験が、学習の達成感を得ている。高等学校でも、総合的な学習の時間を通して、「新たな知識や生きる力等を得たい」という結果となった。

そこで、生徒に対して学習のねらいを明確に示し、生徒が自発的に課題を発見して学習することが、総合的な学習の時間の在り方につながると考え、以下の学習活動を研究した。

(1) 生徒の基礎的・基本的な能力を高めるための学習活動

基礎・基本の充実を図るために、生徒が自ら学習する能力を育成し、その力を定着させることが生きるために必要な力と考えた。グループにおける調べ学習の中で、生徒は学び方や考え方について学習した。

(2) 生徒の進路選択に必要な能力を高める学習活動

ボランティア活動やインターンシップ等の体験学習により、生徒が将来について考える動機付けを明確にした。そして、総合的な学習の時間を「産業社会と人間」等、教科等と関連付けて、学校全体で取り組むべき学習活動であると認識した。また、これらの体験を通して、生徒が人と関わることにより、コミュニケーション能力の重要性を自覚し、自ら積極的に活動に参加することで、勤労観・職業観や社会性を身に付けていくことが分かった。

(3) 生徒の総合的な能力を高めるための学習活動

各教科等で培ってきた学習能力を発揮しながら、グループ研究を行った。グループ活動では、リーダーの育成と、自らの役割を認識し主体的に活動する能力が身に付いた。そして、これらの総合的な能力を、教科等の学習活動に生かしていくことが重要である。

◎ 総合的な学習の時間において、生徒が主役となる学習活動を実現するためには、生徒に対する動機付けの工夫を行う、生徒の主体的な学習活動を提案する、活動の振り返りを工夫することが重要である。また、グループ学習の中でリーダーを育成して生かすしくみをつくる必要がある。これにより生徒が個々の役割を見出し活動するなど、生徒の積極的な活動が期待できる。その際、ワークシート等の教材を活用し、生徒の学習意欲を持続させることに留意する。そして、獲得した知識や技術を発表等の振り返りの場で発揮させることにより、一人一人の生徒の総合的な能力が高まる。

平成17年度 教育研究員名簿（総合的な学習の時間）

	地区	学 校 名	氏 名
	1	都立 八 潮 高等学校	◎ 高寺 寛樹
	2	都立 大学附属 高等学校	佐藤 義弘
	3	都立 杉並総合 高等学校	○ 池田 悟
	5	都立 竹 台 高等学校	鈴木 邦武
	6	都立 大 江 戸 高等学校	鈴木 果純
	7	都立 山 崎 高等学校	瀬野 光孝

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 佐藤 俊一

平成17年度教育研究員研究報告書

〔 東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号 〕

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター

所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号

電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷